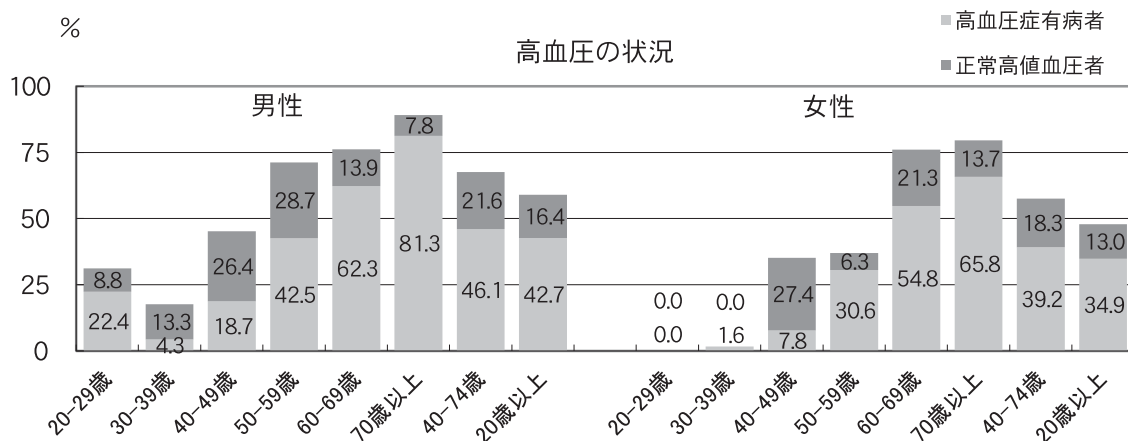


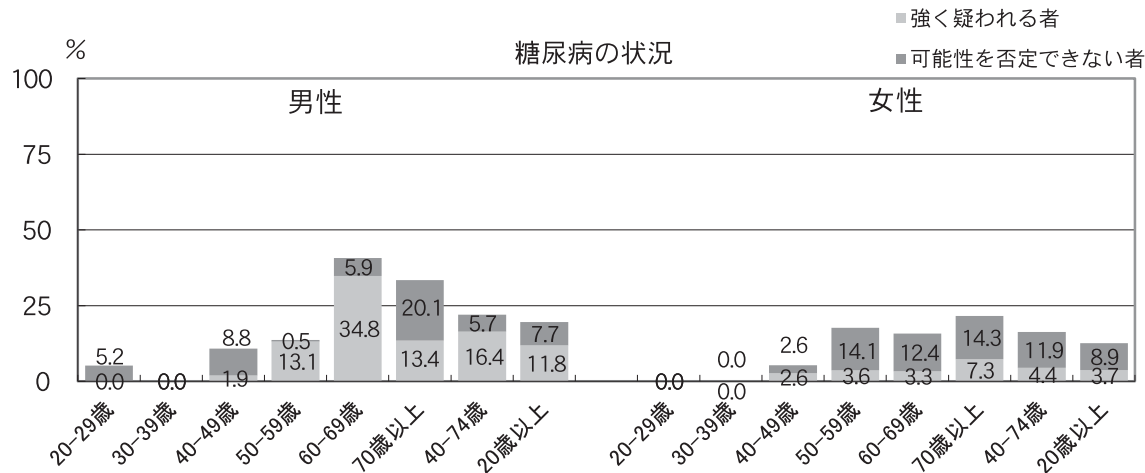
第1部 生活習慣病及び肥満の状況

1 生活習慣病の状況

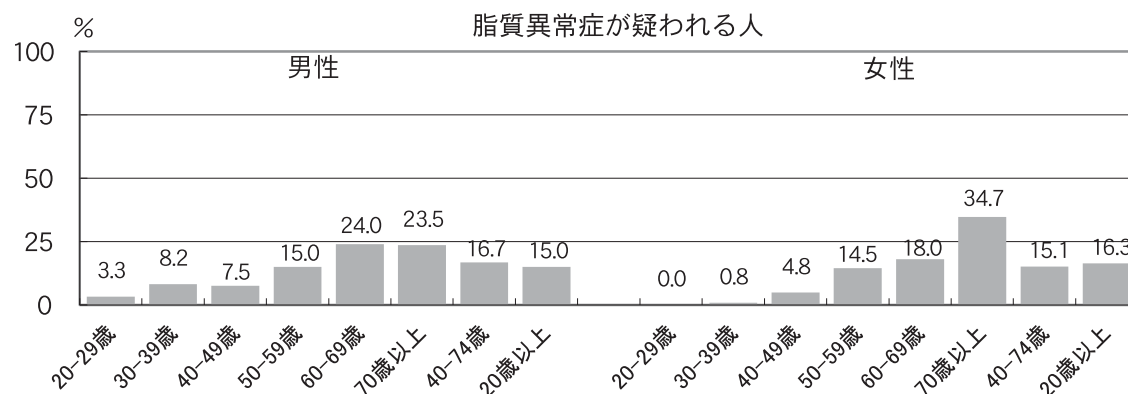
成人の高血圧、糖尿病、脂質異常症の状況は、高血圧は男性の約4割、女性の約3割、糖尿病は男性の約1割、脂質異常症は男女ともに約2割となっている。



高血圧有病者：収縮期血圧140mmHg以上、または拡張期血圧90mmHg以上、もしくは血圧を下げる薬を服用している者
 正常高値血圧者：収縮期血圧130-139mmHg、または拡張期血圧85-89mmHgで、高血圧有病者以外の者

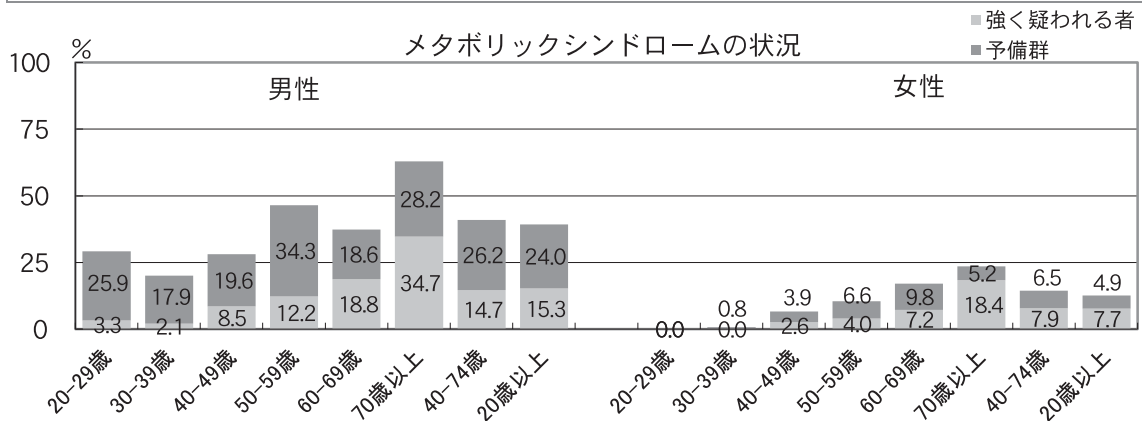


糖尿病が強く疑われる者：HbA1c (NGSP値)6.5%以上、または、治療中の者
 糖尿病の可能性を否定できない者：HbA1c (NGSP値)6.0%以上、6.5%未満で、「強く疑われる者」以外の者



脂質異常症が疑われる者：HDLコレステロール40mg/dl未満、もしくは薬（コレステロールまたは中性脂肪を下げる薬）を服用している者

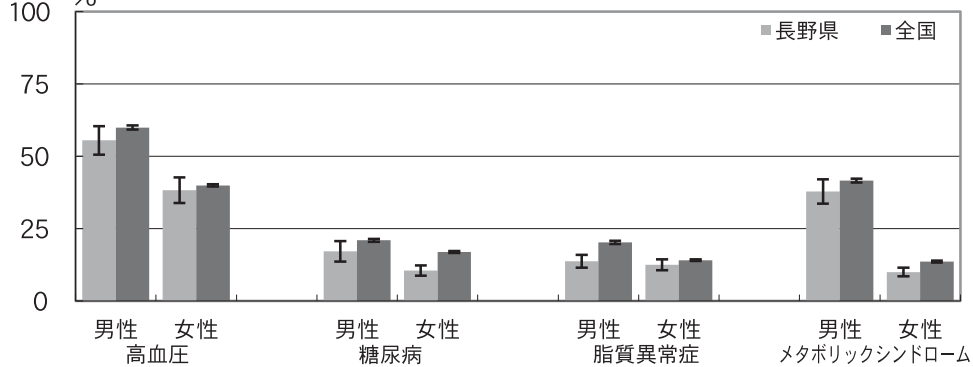
メタボリックシンドロームが強く疑われる人は、成人男性は約2割、女性は約1割。男性は予備群と考えられる人を含めると約4割になる。



腹囲該当 (男性85cm以上、女性90cm以上) かつ、下記3項目のうち2項目以上該当する者を「強く疑われる」、1項目該当する者を「予備群」としている。①HDLコレステロール40mg/dl未満、かつ/または薬 (コレステロールまたは中性脂肪を下げる薬) 服用。②収縮期血圧130mmHg以上、かつ/または 拡張期血圧85mmHg以上、若しくは血圧を下げる薬服用。③HbA1c6.0% (NGSP値)以上かつ/または、インスリン注射使用または血糖を下げる薬服用。

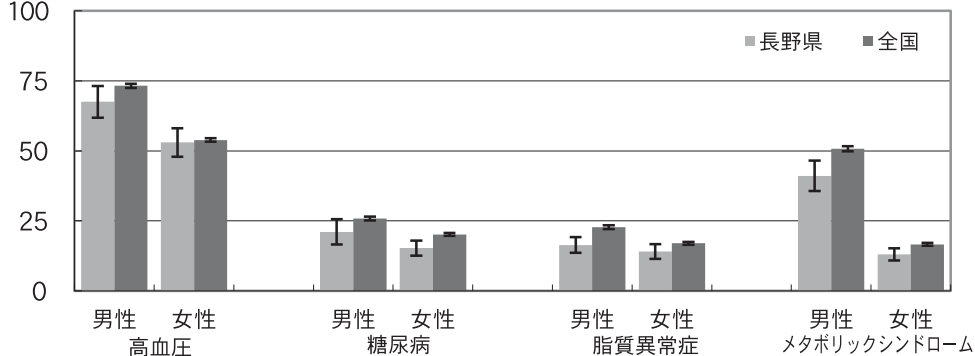
高血圧、糖尿病、脂質異常、メタボリックシンドロームの状況を全国と比較すると、高血圧は男女ともに全国と同程度である。
 糖尿病の割合は、男性の40-74歳、女性の20歳以上で全国よりも低くなっている。
 脂質異常症の割合は、男性は全国よりも低くなっているが女性では全国と同程度である。
 メタボリックシンドロームの割合は、男性の40-74歳、女性の20歳以上では全国よりも低くなっている。

生活習慣病の状況の全国との比較 (年齢調整値 20歳以上)



※
割合は以下のとおり
 高血圧：高血圧+正常高値者
 糖尿病：強く疑われる者+可能性が否定できない者
 脂質異常症：強く疑われる者
 メタボリックシンドローム：強く疑われる者+予備群

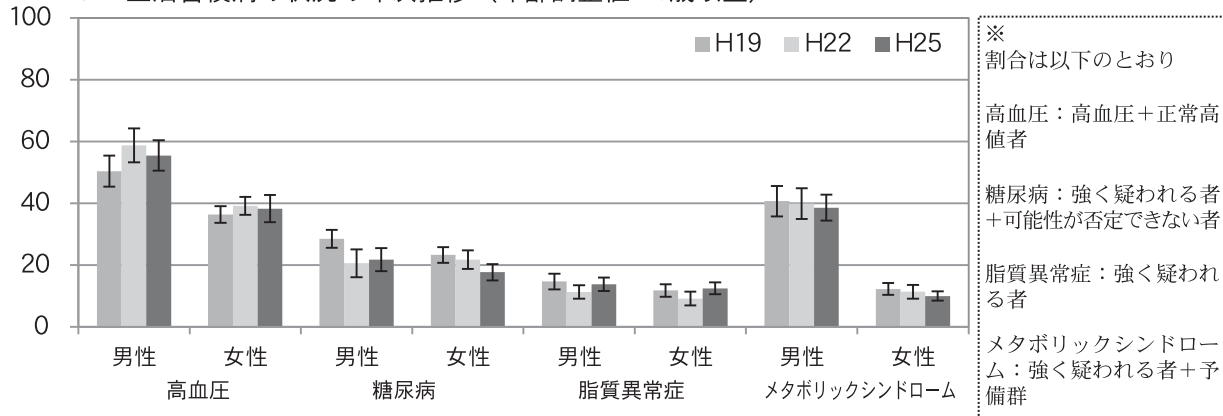
生活習慣病の状況の全国との比較 (年齢調整値 40-74歳)



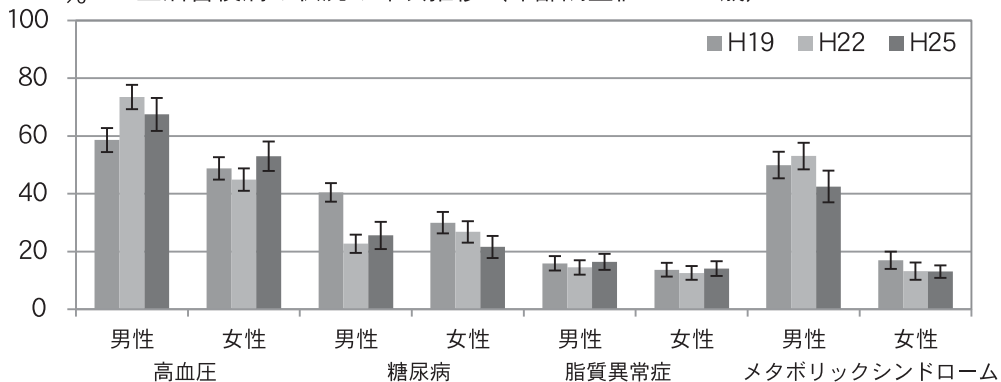
全国：H24国民健康・栄養調査報告 年齢調整値：基準は長野県・全国ともにH17国勢調査男女計人口誤差線は標準誤差 (全国は公表された標準偏差から計算した値であり参考値)

高血圧、糖尿病、脂質異常、メタボリックシンドロームの状況について、平成19年からの推移をみると、高血圧と脂質異常症は大きな変化は見られない。糖尿病とメタボリックシンドロームは若干改善傾向が見られる。

％ 生活習慣病の状況の年次推移（年齢調整値 20歳以上）



％ 生活習慣病の状況の年次推移（年齢調整値 40-74歳）



年齢調整値：基準はH17国勢調査男女計人口

生活習慣病の状況(年次推移)における生活習慣病疑い等の判定方法

(高血圧)

高血圧有病者：収縮期血圧140mmHg以上、または拡張期血圧90mmHg以上、もしくは血圧を下げる薬を服用している者。
 正常高値血圧者：収縮期血圧130-139mmHg、または拡張期血圧85-89mmHgで、高血圧有病者以外の者。

(糖尿病)

糖尿病が強く疑われる者：HbA1c (JDS値)6.1%以上、または血糖を下げる薬またはインシュリン注射をしている者
 糖尿病の可能性を否定できない者：HbA1c (JDS値)が5.5%以上6.1%未満で「強く疑われる」以外の者。

(脂質異常症)

脂質異常症が疑われる者：HDLコレステロール40mg/dl未満、または薬（コレステロールまたは中性脂肪を下げる薬）を服用している者。

(メタボリックシンドローム)

腹囲該当（男性85cm以上、女性90cm以上）かつ、下記3項目のうち2項目以上該当する者を「強く疑われる」、1項目該当する者を「予備群」としている。

①HDLコレステロール40mg/dl未満、かつ/または薬（コレステロールまたは中性脂肪を下げる薬）服用。

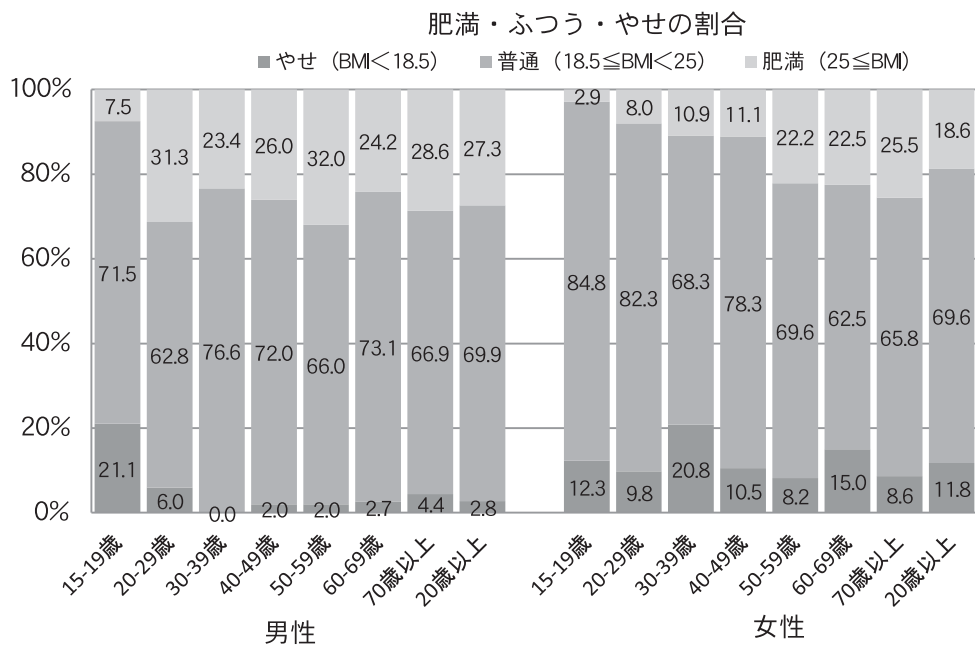
②収縮期血圧130mmHg以上、かつ/または拡張期血圧85mmHg以上、若しくは血圧を下げる薬服用。

③HbA1c5.5%(JDS値)以上かつ/または、インシュリン注射使用または血糖を下げる薬服用。

2 肥満・やせ等の状況

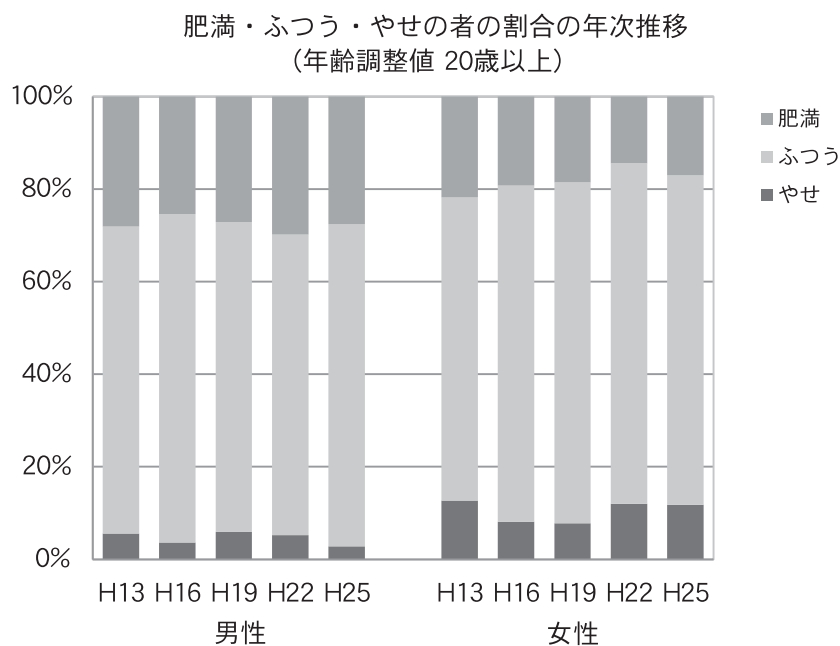
適正体重を維持している人は男女とも成人の約7割。

「肥満」の割合は、成人男性は約3割、女性は約2割であり、女性の「やせ」の人の割合は約1割。



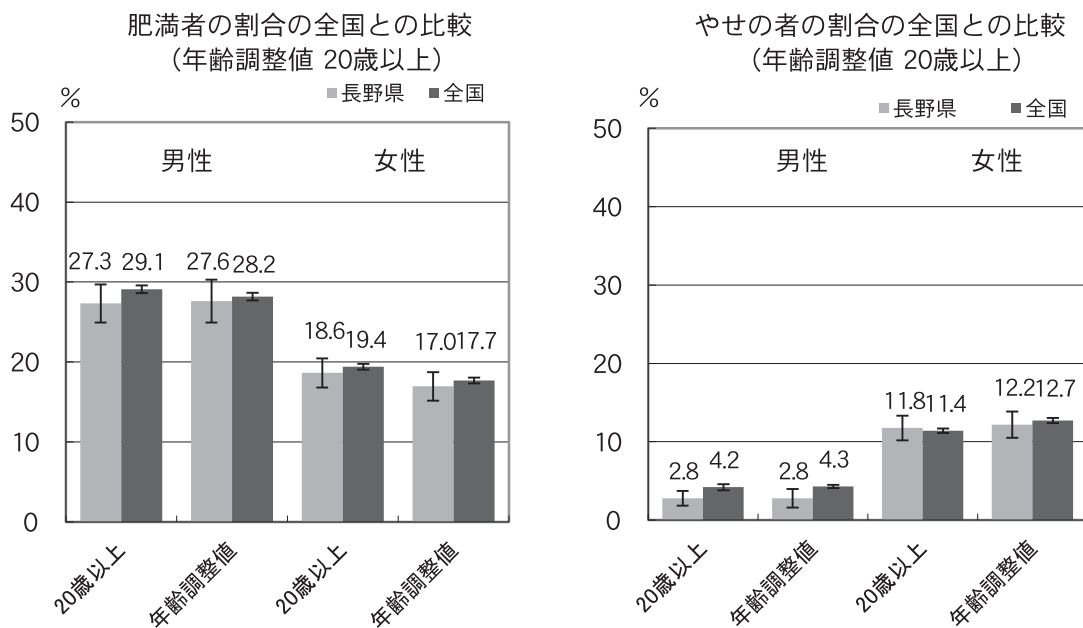
※BMI (BodyMassIndex) [kg/m²] = 体重 [kg] / (身長 [m])²

「肥満」や「やせ」の者の割合について、平成13年からの推移をみると、「肥満」の割合は男性では大きな変化は見られないが、女性は年々減少傾向がみられる。



H13、16調査はH19、22、25調査とは標本抽出方法が異なり単純に比較できる値ではないため参考値。
年齢調整値：H17国勢調査男女計人口を基準に年齢調整。

「肥満」及び「やせ」の状況について、全国と比較すると、いずれも男女ともに差はみられない。



全国：H24国民健康・栄養調査報告書 年齢調整値：長野県・全国ともにH17国勢調査男女計人口を基準に年齢調整。誤差線は標準誤差（全国は公表された標準偏差から計算した値であり参考値）

低栄養傾向の高齢者の割合は約2割であり、男女別では男性は約1割、女性は約2割。

